

2013年7月31日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 山田佳臣殿

中央新幹線町田説明会の入場制限と貴社の対応に強く抗議する

2013年7月30日夜、東京・町田市の町田市民ホールで貴社主催の「中央新幹線計画説明会」が開催された。その際、申し込みできずに会場を訪れた数名の市民に対し、「申し込みを締め切った」、「締め切り後は入場できないことは電話での問い合わせに対しても伝えてある」として入場を拒否した。会場内を見ると、説明会開始時点でも席は半分以上も開いており、人数制限する状況ではなかった。本来、柔軟な対応をすべきにもかかわらず、貴社のスタッフは「会社が決めたことだ」の一点張りだった。さらに、「入れないのなら、音声をテレビモニターでロビーに流すよう」求めたのに、これも拒否した。テレビの映像取材も冒頭だけで、カメラスタッフはそのあと締め出されている。

貴社も明言している通り、中央新幹線説明会の趣旨は「多くの方に中央新幹線について理解をしていただくため」であり、応募が定員に達しなかった場合は、当日も出来る限り多くの人に参加してもらうことこそ説明会の趣旨に沿うものと考えます。30日の対応は貴社の開催趣旨に逆行するものであった。

私たちは、これまで、広く多くの人にリニア新幹線計画を理解してもらいたいのなら、説明会をネット中継するよう求めて来た。また、説明会の全容を貴社のホームページで開示することも申し入れてきた。しかし、貴社はいずれも拒否している。また、これまでの各県の説明会では、ほとんどが計画についての疑問の声であったり、計画の凍結を求める意見や質問だった。にもかかわらず、説明会後の会見で貴社幹部は「説明し理解を頂いた」などと語っている。

いうまでもなく、リニア新幹線建設費は東海道新幹線の利用者が支払う運賃収入でまかなわれるものである。首都圏の説明会の参加者のほとんどが東海道新幹線の利用客である。その人たちの説明会への参加を制限することは、顧客に対する極めて不遜で思い上がった態度であると言わざるを得ない。

国鉄分割民営化で国民は今なお、十数兆円の返済を強いられている。中央新幹線もやがては国民負担のおそれがあることが指摘されている。

今回の入場制限のような傲慢で思い上がった姿勢を続ける限り、中央新幹線計画は到底国民の理解を得られないであろう。

私たちは、ここに、貴社に対し強く抗議するとともに、今後は説明会参加や問い合わせにつき、一切の制限をやめるよう求める。

以上

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会